

現代民俗学会第14回運営委員会

【日時】：7月31日(土) 午前10時30分～

【場所】：東京大学東洋文化研究所3階第二会議室

【出席者】：石本敏也、及川高、小熊誠、門田岳久、菅豊、武井基晃、塚原伸治、徳丸亜木、
中野泰、古家信平、渡部圭一

一. 研究企画委員会（菅委員）

1. 第7回研究会の進捗状況について

第7回「無形文化遺産保護運動と中国民俗学 その可能性と課題」(9/11、東京大学東洋文化研究所。周星氏、施愛東氏、西村真志葉氏)について、告知チラシを交え説明された。

2. 第8回研究会の進捗状況について

8回(11/27)は「自然保護と文化保護の異同」をテーマに東京大学で開催される予定である。コーディネーターは岩本通弥氏・室井康成氏がつとめる。

二. 編集委員会（徳丸委員、渡部委員）

1. 第3号のエントリー状況

「論文」枠で6本のエントリーがあったことが報告された。それらの「予定内容」の一覧に対し、それらが本会の学会誌に合うかどうか指摘され、学会誌が目指すポリシー、メッセージが示されるべきであると提案された。

2. 誌面構成の方針

①上記のエントリー状況を元に、予想される誌面のページ数、その費用の試算が示された。なお、巻頭はD. ノイズ氏の講演を元にした原稿が掲載される。

②実際の投稿状況によって、特集が組めるかどうか検討された。これに関連して、シンポジウムおよび研究会の開催後、運営委員会での事後評価、特集記事にするかを含めた総括の必要性が提案された。これに対して、会員の参画する場を確保するためにも、投稿を重視する必要があるとの意見も出された。

三. 総務委員会（武井委員、石本委員）

1. 会誌第3号エントリー者の入会状況・会費の入金状況

投稿者の会費完納については明記されていないので、今後4号に向けて投稿規定を改正することとなった。投稿者が未納の場合は、原稿が届いてから完納を求めることとする。

2. 会誌の研究機関送付先の変更

大学図書館に送るより研究室に送るほうが有効との指摘があったが、先方から要望があった時点で検討し、基本的には図書館に送り続けることとなった。

3. 日本民俗学会年会（東北大）での「会誌販売」

10月2, 3日の両日、当会会誌を販売する。

4. 支出の請求と承認についての申し合わせ

以下の会計処理に関する申し合わせ（案）が提示され、承認された。

◎会計に関して

1. 多額な支出に関しては、事前に運営委員会の承認を経ることを原則とする。
2. 変更が予想される場合、運営委員会の開催に先行して速やかに総務に通達する。
3. 会計は総務より連絡を受け、運用の可否、及び条件について検証を行う。その際会計は、運営委員会の判断に必要な、見通しとなる内訳を適宜求めることができる。なお通達は、この検証期間を十分に加味することとする。
4. 会計は以上をとりまとめ、運営委員会にて発議を行う。

5. 3年未納者について

3年間会費未納の会員について、以下の通り対応することが決まった。

1. 期限を12月末日とした通知を振込用紙とともに郵送（但し国外者にはメールで送る）。
2. それでも来なかった場合は、2月頃に再度督促状を送る。期日は3月末日とする。
その際、退会について触れた条項を明記する。
3. 4月1日をもって、退会とする。

6. 次回運営委員会日程

9月11日(土)10時台に、東京大学で開催する。